

能

杜若

恋之舞

狂言

長光



令和2年 3月14日(土)

あわぎんホール

(徳島県郷土文化会館)

14:00開演 [13:30開場] 16:50終了予定

入場料 会員前売券 前方中央部に
会員優待席を設置
4,000円

一般前売券 会員優待席以外の自由席
4,000円 (当日5,000円)

学生前売券 小学生～大学生(シルバー大学は除く)
未就学児の入場・同伴はご遠慮下さい。
1,000円 (当日1,500円)

後援/四国放送(株) 徳島新聞社 ケーブルテレビ徳島(株)
朝日新聞徳島総局 読売新聞大阪本社徳島支局
(株)あわわ

助成/徳島県あわ文化創造支援

主催/NPO法人徳島能楽振興会

【写真/能「杜若」河村晴道 演能写真提供 金の星波辺写真場】

関連企画 能楽セミナー「杜若」

令和2年 2月15日(土) 入場券 1,000円

【14:00開講】

徳島市シビックセンター 4階ホール

講師:河村晴道
(観世流シテ方) 京都観世会理事

午後二時始

解説 河村 晴久

〔仕舞〕

小鍛冶 水田 雄晤

碓 潜 河村 晴久

土蜘蛛 味方 團 河村 紀仁

龍 田 河村 和重

逆 矛 林 宗一郎

龍 田 河村 和重

河村浩太郎 松野 浩行 田茂井廣道 河村 和貴

午後二時五十分

〔狂言〕

長光 シテチツば 小笠原 匡

アト(田舎者) 泉 慎也 後見 安田 典幸
小アト(目代) 山本 豪一

—— 休憩(十五分) ——

午後三時三十分

〔一能〕

杜若

シテ(杜若の精) 河村 晴道
ワキ(旅僧) 原 大

大鼓 谷口 正壽 太鼓 中田 弘美
小鼓 成田 達志 笛 大野 誠

後見 林 宗一郎 樹下 千慧

味方 團

地謡 河村浩太郎 松野 浩行
河村 和晃 河村 晴久
河村 和貴 河村 和重
水田 雄晤 田茂井廣道

附祝言

終了予定 四時五十分頃

ながみつ 長光

坂東に住む田舎者、上方見物を思い立ち京へ上ろうとすると、人から上方へ届けられてくれと太刀を預かる。京に着き、店が賑やかなので太刀を持ったまま玩具店をのぞいていると、盗人が立派な太刀を盗ろうと側に寄ってきて太刀に触る。田舎者は、変な奴がいると思いい他の玩具店や馬具店へ行くと、盗人もついてきてすきをみて、太刀を自分の腰に括る。田舎者は驚いて、「これは私の太刀だ、何をやる。出会え出会え」と叫ぶと盗人も「私の太刀だ」という。
二人が言い争っていると、所の目代(中世の代官、役人)が現れ、太刀を預かり、両者の言い分を聞いて裁定しようとする。さて、結末はどうなることやら。

かきつばた 杜若 恋之舞

三河の国(愛知県)八橋は、古来杜若の名所として知られている。その八橋を舞台にこの恋の曲は展開する。
諸国を廻る旅僧が八橋に着き、沢辺に咲き乱れる杜若に眺め入っていると、女が現れ、「伊勢物語」に詠まれた杜若のことを語り始める。「都より三河に下った在原業平は、カキツハタという五文字を句の上に置いて旅の心を詠めと言われ、「唐衣 着つつなれにし 妻しあれば 遙々来ぬる 旅をしを思ふ」と、都に残してきた最愛の人高子の后を思って歌を詠んだ。―その歌に詠まれたのがこの杜若であると女は僧に教える。
やがて女は僧を我が家に招き入れる。臥所より再び現れた女は、業平の初冠を着け、高子の後の唐衣を着て、私こそ業平の歌に詠まれた杜若の精であると明かす。そして業平の恋の遍歴を語り舞い、終には仏果を得て成仏できた喜びを示して消えてゆく。

(お客様へお願い) 会場内での録画・録音・写真撮影はお断りいたします。

当日(3月14日)は10時より

能楽体験教室「小鍛冶を語る」を行っております
ご興味のある方はご参加ください

参加費 500円 ※未就学児は無料

前売入場券販売所

郵便振替の場合は
加入者名: 特定非営利活動法人徳島能楽振興会
口座番号: 01660-2-111273

ローソンチケット Lコード 61357
(一般前売券のみの販売)

あわぎんホール事務所 TEL.088-622-8121
(一般前売券、学生前売券)

お問い合わせ先

NPO法人徳島能楽振興会
〒770-0807 徳島市中前川町2-17-3
http://tokusima-nougaku.sakura.ne.jp/
TEL&FAX 088-625-9907(吉田)
TEL 090-5144-3684(吉田)
TEL 090-8971-4456(後東)
TEL 090-1324-7168(里)

